
ペルソナ 3 ペルソナの名は ” ディケイド ”
賢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペルソナ3 ペルソナの名は”ディケイド”

【Nコード】

N5341V

【作者名】

賢

【あらすじ】

俺はよく見る夢がある

記憶喪失の青年が世界の破壊者と呼ばれ、他の様々な戦士の世界を旅し、滅びの現象が起きたその世界で、その世界を司るの戦士達と戦いを通じて仲間になる夢

彼の使命が終わり、彼の新たな物語が始まるところでその夢は終わる

2009年4月

10年前に両親を事故で亡くし、親戚に育てられた俺は家庭の事情

で小中高一貫校である「私立月光館学園」の高等部に編入することになった

編入早々、シャドウと呼ばれる怪物に襲われた俺は夢で見たマゼンダ色の戦士のつけていたベルト”ディケイドライバー”を手に入れるそして俺は仮面ライダーディケイドとなってシャドウを撃退する

シャドウを撃退したが次にまた夢で見た謎のオーロラが現れて仮面ライダーの敵であるグロンギ・アンノウン・ミラーモンスター・オルフェノク・アンデット・魔化魍・ワーム・イマジン・ファンガイア・ドーパント・ヤミーが現れる

ライダーたちの力を使い、何とか怪人たちを倒したがライダーカードがディケイドだけを残してどこかへ飛び散ってしまう

仮面ライダーの夢・10年前の事故・この世界にはいないはずの怪人達

さまざまな出来事が交錯する中、この世界に訪れる滅びを破壊し、未来へと繋げ！仮面ライダーディケイド！

勝手な自己解釈やオリジナル設定があります。苦手な方はお戻りください

主なイベントしか書かないので大分日にちが飛んだりします

ご了承ください

プロローグ

俺はよく見る夢がある

記憶喪失の青年が世界の破壊者と呼ばれ、他の様々な戦士の世界を旅し、滅びの現象が起きたその世界で、その世界を司るの戦士達と戦いを通じて仲間になる夢

彼は一度その仲間となった戦士達の物語を守るために、その戦士達を破壊した

たった一人で悪魔と呼ばれながら、マゼンタ色の仮面に課せられた使命”破壊による世界の再生”のために

その戦士が司る世界なのに、その戦士の存在が当たり前になりすぎたために認識されず、意識されない為その戦士が消え、その世界が滅びるという皮肉

当たり前のものはあっても無くても変わらない

そして認識され、意識されることでものは存在することが出来る
そして認識されない、意識されないものは存在出来ない

携帯電話など日常生活で必ず使うものなどは常に認識され、意識されている為消える事はない

だが当たり前になったその戦士達を常に認識し、意識しているものなどほとんど無い為、滅びの現象により世界が滅びてしまう

彼はある戦いの後、やはり世界の滅びの原因は彼であるといわれ、仲間となった戦士達と戦い、その戦士達を破壊した

しかし、そうする事でその戦士の存在をその戦士が司る世界に再認識、意識させることでその戦士達を再生させる事が出来、世界の滅びを食い止める事に繋がった

そして彼の使命は、共に旅をしたもつとも信頼する女性の手で殺されたことで果たされた

使命を真つ当した彼のおかげで、またその戦士達は物語を紡ぐことが出来るようになった

これらの旅は、彼から見たらば物語だろう

しかし他の世界のもの達にとって彼は、その世界の戦士達の物語に登場した脇役でしかない

どんな世界を旅しようとも、彼の世界が存在していないため、彼への認識・意識がほどほど無いに等しい

それは先程の説明ように、認識・意識されないものは存在出来ない為、彼は復活出来なかった

一番の功労者であるはずの彼が

しかし彼の仲間達が彼を強く意識し、認識した結果、彼は仲間達の下に戻る事ができた

彼は今まで自分に悪魔や破壊者などと言ってきた男にこう言った”旅こそが俺の物語だ”そして”通りすがりの仮面ライダーだ”と

世界征服を目論む悪の組織を仲間と阻止して仲間とともに新たな世界へ旅だった所で夢は終わる

今回は目が覚めたら電車の中だった

俺は今度転入する学校である”私立月光館学園”の寮を目指していた
今は2009年4月

10年前に俺は両親を事故で亡くし、親戚に育てられた俺は家庭の事情で小中高一貫である「私立月光館学園」の高等部に編入することとなった

時間はもうすぐ午前零時になる

ダイヤの乱れで大幅に到着が遅れてしまった

そうこうしているうちに目指す寮がある 駅に到着する

すると改札を抜けたところで周りの雰囲気が変わる

明かりが消え、緑がかった不気味な風景

駅から出て空を見上げると異様な程に大きな月

そして道においてある数多くの棺型のオブジェ

異様な風景だが夢に出てきた戦士が戦っていた怪人や怪物に比べたらどうってことはない

パンフレットを片手に寮を目指す

この時の俺にはわからなかった

この先の壮絶な戦いの運命がマゼンタ色の仮面の戦士の新たな物語の一つになるということ

ブログ（後書き）

アースのついでに書きたかったものです

アースの合間に投稿できたらしたいと思います。

第一話 到着

異様な光景の中を歩いていると、私立月光館学園の巖戸台分寮が見えてきた

寮の玄関を開けて中に入ると左手側のカウンターから声を掛けられた

「こんばんは」

声を掛けてきたのは子供だった

「とうとうこの時が来たんだね。長い間君を待ってたよ」

「待っていた？　どういう事だ？　お前はこの寮の人間か？」

子供の言い草に妙な違和感を覚える

すると子供は何処からか紙を取り出しながら

「そういう訳じゃ無いけどね。僕は待ってたんだ。長い間ね」

そして紙を見せながら

「ここから先に進みたいなら、ここに署名を。一応契約だからね」

「”我、自ら選び取りしいかなる結末も受け入れん”。なるほど、大体わかった」

おそらくは”学園では自分の行動に責任を持て”的な意味だろうと

勝手に解釈し、署名をする”門矢 士”と

「確かに。時は誰にでも結末を運んでくるよ。例え、耳や目を塞いでいてもね」

「何を当たり前なことを言ってるんだ？」

子供の物言いに疑問を感じたが

「さあ、はじまるよ」

子供はそついうと寮内の暗闇に溶けるようにして消えてしまった

それと同時に、寮の階段の方から声が聞こえた

「誰っ！」

そちらを見ると、ピンクのカーディガンを着た茶髪の少女がいた

「この時間にどうして・・・まさか」

少女は警戒心をあらわにしている
しかし士は

「女子だと！しまった！ここは女子寮だったか！」

と、テンパっていた
するとまた奥から

「安心しろ、ここは特別で女子寮という訳ではない。それから岳羽、彼は大丈夫だ」

赤髪で首もとに大きなリボンを付けた少女が現れた

「桐条先輩」

岳羽と呼ばれた少女は桐条と呼ばれた少女の言葉通り警戒心を弱めた

「到着が遅れたようだね。まあ、ダイヤの乱れではしょうがないがな。私は桐条美鶴。この寮の寮生だ。岳羽、彼は門矢士。この春から二年生だから君と同学年か」

「よろしく」

岳羽はまだ警戒しているらしく、声が弱冠低い
しかし士は

「門矢士だ。よろしく頼む」
気にせず自己紹介をする

「桐条先輩、彼は・・・」

「門矢は本来男子寮へ入るはずだったのだから、手違いがあつてな。いずれ正式に割り当てが決まる」

「そうですか」

岳羽は腑に落ちない様子で士を見ている

「今日はもう遅い。部屋は用意してあるから早く休むといい」

「じゃあ、案内するからついて来て」

桐条の言葉で岳羽が案内役を買って出る

そして岳羽の後について行き、二階の突き当たりの部屋へと案内される

「ここが君の部屋だね。覚えやすくいいでしょ。・・・あのさあ、ここに来るまで大丈夫だったの？」

恐らく岳羽が言いたいのはこちらまで来る間に見た棺型のオブジェの事だろう

士は夢でもっと恐ろしい光景を見慣れているが、流石にそんな事は言えないので

「ああ、あれくらいなら平気だ」

と、適当に答える

「あれくらいって、ホントに大丈夫だったみたいね」

そついうと岳羽は階段へ向かって行き、途中で振り返り

「あのさ、いろいろ聞きたいかもしれないけどまた今度ね。それじゃあ、おやすみ」

といって上の階に行ってしまった

「何だ？挙動不審だったな。まあ、また今度聞いてみるか」

士はそついうと部屋に入ってさっさと寝てしまった

これからとてつもない運命が待ち受けているとも知らずに

変身(1) (前書き)

正直な話、こっちのほう書きやすかったりしますww
ですが、こっちはあくまで気が向いたら更新なので今更ですが更新
速度は期待しないでください
アースのほうも含めてですが・・・

変身（１）

今日は４月９日

転入から３日たった

転入当日は岳羽に案内してもらって学校まできたが、どうやらそれによって士は大分目立ってしまったようだ

中でも１番最初に話し掛けてきた野球帽の少年「伊織 順平」はしつこかったが、早くも友達になれた

その日は特に用事も無いので早く寮に帰っていた

この所、毎晩仮面の戦士の夢を見る

最近は何故か戦いかたが主である

その夢は一人分が終わると目が覚める為、士は寝不足だ

そんな訳で今日も早くにベッドに入っている士だが、彼を監視している者達がいた

「どうだい、彼の様子は」

「異常はありません。彼は眠りが浅い体質なのかよく目を覚ましませんが、影時間には目覚めていません」

今は影時間と呼ばれる隠された時間の中

寮の中のある一室、作戦室で士を監視しているのは幾月修司・桐条美鶴・岳羽ゆかりの３人である

「ふむ、やはり彼は興味深いね。影時間に適正があるといっても、初めは混乱して錯乱したりもするんだけど彼にはそれが無い。実に異例なケースだよ」

「でもこれじゃあ、モルモットみたいじゃないですか」

そんな話をしていると影時間の間は外に出てシャドウと戦っている
真田明彦から通信が入る

「明彦か、どうした？」

「凄いヤツを見つけた！これまで、見たことも無いやつだ！・・・
ただ、あいにく追われていてな。もうすぐそちに着くから、一応
伝えておく」

「それ・・・ヤツらが、ここに来るって事ですか！？」

「理事長！今日の監視は、ひとまずこれまでに。我々は応戦の準備
をします！！」

「・・・た、頼んだぞ」

突然この寮に向かってくるシャドウに応戦するために士の監視を中
止する

そして明彦がこのように戻ってきたがそれと同時に寮も揺さぶられ、
ゆかりは美鶴に士を裏口から逃がすように指示され、それを実行に
移す

そして士の部屋

「ん・・・なんだ？地震か？」

シャドウが寮を揺らしたときのゆれを地震と勘違いしつつも上着を
羽織って一階のラウンジへ行こうとするが突然ドアを叩かれる

「起きて！！ゴメン、勝手に入るよ！」

そついうとゆかりがあわてた様子で入ってきた

「悪いけど、説明しているヒマ無いの。今すぐここから出るから！」

「どうした、地震でガス漏れでも起きたのか？」

あわてたゆかりとマイペースを崩さない士だが

「とにかく急いでの！一階の裏口から外に出るよ！」

そついうとゆかりは士の腕をつかんで廊下を走り、階段を降り、一階の裏口まで来たがそこでゆかりに通信が入る

「岳羽、聞こえるか？」

「ハ、ハイッ！、聞こえます！」

「気をつける！敵は一体じゃないみたいだ！こことは別に本体がいる！」

「マジですか！」

「おい岳羽！いい加減何が起きてるか教えたらどうだ！」

士がゆかりに説明を求めるが、それと同時にまた寮が揺さぶられる

「うわっ！ひ、ひとまず、退却！！！」

「なっ！おい！待て岳羽！」

ゆかりは土の腕をつかんで階段を上り、屋上へ出て鍵を閉める

「フウ・・・鍵もかけたし、ひとまず、大丈夫かな・・・」

「おい岳羽・・・いい加減に何があったのか教える！」

「それは後で説明するから！！」

そのとき、何かが咆哮した

『！？』

そして屋上のふちに黒い手がかかり、そこから手とそれに持たれた
仮面がこちらを向いた

そして無数の手とその背後に剣のようなものを持った手がたくさん
現れ、こちらへにじり寄ってきた

「嘘っ！外を登ってきたの！」

そして寮の作戦室では

「いた！屋上だ！」

「・・・なんだ、あの巨大なシャドウは！？」

「・・・美鶴、いくぞ！」

「待て！」

明彦と美鶴が屋上に現れた巨大シャドウの元へ向かおうとしたのを幾月が止める

そして再び屋上

「あれがここを襲ってきた敵・・・”シャドウ”よ！そ、そうだ・・・戦わなきゃ・・・”召喚”・・・私だって、できるんだから・・・

」

そういつてゆかりはシャドウの前に立ち、額に拳銃のようなものを突きつける

しかし巨大シャドウは火の玉をゆかりに放ち、ゆかりはそのまま吹き飛ばされる

そして巨大シャドウが土のほうを見つめる

すると土は体のうちから何かが出てくるような感覚に襲われひざを突く

「ぐっ！あああああ！」

叫び声を上げる土の背後には死神のような禍々しいオーラを発するペルソナ”タナトス”が現れる

そしてタナトスがシャドウに襲いかかるうとしたところでその間に銀色のオーロラが現れる

そしてオーロラがシャドウとタナトスの進行を止めたところで、オーロラの中から歩いてくる人影が見えた

それは土の夢の中に現れたマゼンダ色の戦士
次元を超え、世界を消滅から救った「世界の破壊者」
仮面ライダーディケイドだった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5341v/>

ペルソナ3 ペルソナの名は ” ディケイド ”

2011年11月13日03時00分発行